

○水生生物モニタリング調査結果一覧（阿武隈川河口沖K）

＜阿武隈川河口沖K　水質底質採取項目＞

項目	一般分析項目		放射性物質分析項目			
調査地点	水質	底質	水質（Cs）	水質（Sr）	底質（Cs）	底質（Sr）
K－3	○	○	○	○	○	○

＜阿武隈川河口沖K　現場測定項目＞

項目	調査緯度・経度		調査日時			水質	底質				その他	
調査地点	緯度	経度	日	時刻（水）	時刻（泥）	水温（℃）	泥温（℃）	性状	色相	混入物	全水深（m）	透明度（m）
K－3（表層）	38. 0458°	140. 9518°	R5. 8. 21	12:10	12:25	29. 5	19. 8	シルト混砂	5Y3/2	なし	20. 0	3. 8
K－3（下層）				11:50		19. 8						

＜阿武隈川河口沖K　一般分析項目・放射性物質分析項目　水質＞

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	BOD （mg/L）	COD （mg/L）	DO （mg/L）	電気伝導率 （mS/m）	塩分	TOC （mg/L）	SS （mg/L）	濁度 （度）	Cs-134 （Bq/L）	Cs-137 （Bq/L）	Sr-90 （Bq/L）
調査地点	緯度	経度	日	時刻												
K－3（表層）	38. 0458°	140. 9518°	R5. 8. 21	12:10	8. 3	1. 4	3. 2	8. 1	4000	26. 64	1. 8	3	2. 6	N. D.（0. 0014）	0. 0044	－
K－3（下層）				11:50	7. 9	0. 7	1. 8	5. 3	4870	33. 88	1. 3	5	4. 2	N. D.（0. 0016）	0. 0069	0. 00085

注）N. D. は、not detected（検出下限値未満）を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

＜阿武隈川河口沖K　一般分析項目・放射性物質分析項目　底質＞

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	酸化還元電位 E _{N. H. E} （mV）	含水率 （％）	IL （％）	TOC （mg/g-dry）	土粒子の密度 （g/cm ³ ）	粒度組成								Cs-134 （Bq/kg-dry）	Cs-137 （Bq/kg-dry）	Sr-90 （Bq/kg-dry）
	緯度	経度	日	時刻							礫 （2～75mm） （％）	粗砂 （0. 85～2mm） （％）	中砂 （0. 25～0. 85mm） （％）	細砂 （0. 075～0. 25mm） （％）	シルト （0. 005～0. 075mm） （％）	粘土 （0. 005mm未満） （％）	中央粒径 （mm）	最大粒径 （mm）			
K－3	38. 0458°	140. 9518°	R5. 8. 21	12:25	7. 8	78	31. 9	4. 9	11. 0	2. 640	0. 0	0. 0	0. 5	44. 0	39. 7	15. 8	0. 066	2. 0	3. 2	130	N. D.（0. 12）

注）N. D. は、not detected（検出下限値未満）を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

＜阿武隈川河口沖K　分析項目　水生生物＞

地点	採取場所	調査緯度・経度		採取日	門	綱	目	科	学名	和名	個体数	採取重量 （kg-wet）	特記事項			放射性セシウム（Bq/kg-wet）			Sr-90 （Bq/kg-wet）
		緯度	経度										成長段階	消化管内容物	測定部位	計	Cs-134	Cs-137	
阿武隈川河口 周辺海域	阿武隈川河口 前面海域	－	－	R5. 8. 30	節足動物	軟甲	エビ [*]	ワケガキ [*]	<i>Portunus trituberculatus</i>	ガザミ	2	0. 49	成体	－	－	N. D.	N. D.（0. 21）	N. D.（0. 21）	－
				R5. 10. 2	脊椎動物	硬骨魚	スズキ [*]	サバ [*]	<i>Scomber japonicus</i>	マサバ	4	1. 1	未成魚/成魚	不明消化物	内臓除去	N. D.	N. D.（0. 28）	N. D.（0. 28）	－
					脊椎動物	硬骨魚	スズキ [*]	ニハ [*]	<i>Pennahia argentata</i>	シログチ	5	1. 1	成魚	空胃	内臓除去	0. 41	N. D.（0. 28）	0. 41	－
					脊椎動物	硬骨魚	スズキ [*]	ニハ [*]	<i>Nibea mitsukurii</i>	ニベ	2	0. 54	成魚	コカイ類	内臓除去	0. 63	N. D.（0. 32）	0. 63	－

※1：生物は、当該調査水域またはその周辺で採取したものである。

※2：水生生物を複数採取できた場合は、これらを混合して試料とした。

※3：複数種の混合試料においては、最も多く採取できた優占種を、和名に下線で示した。

※4：生物試料は、全個体を測定することを原則とするが、消化器系に残留した未消化の餌料や底泥等は測定しないよう、　内臓（胃、腸）の除去が可能な試料については、　除去して測定した。

※5：プランクトン（浮遊藻類）とは、湖沼水または海水を40μmのプランクトンネットで濾した残留物を指す。

※6：河床付着物（藻類を含む）とは、石に付着した藻類をブラシ等で掻き落としたものであるが、無機態のシルト・粘土等の微細粒子が含まれることがある。

※7：N. D. は、not detected（検出下限値未満）を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

※8：放射性物質濃度の数値には計数誤差等が含まれているが、本報においては記載していない。